

教育委員会だより

「自主」と「共生」～自己肯定感

令和2年1月22日号 多治見市教育委員会 教育総務課

わがまち多治見大好き講座⑦「タイル博士になろう 2019」



12月21日(土)に行った土曜学習講座「タイル博士になろう 2019」では、中学生ボランティアを含む57名の児童生徒が、タイル工場を見学したり、タイルの貼り加工体験をしたりして、多治見の主要産業の一つモザイクタイルについて学習しました。

モザイクタイルミュージアムでは、館内の展示を見学しながら、学芸員さんからモザイクタイル製造の歴史や、暮らしの中で

どのように使われているかを教えていただきました。参加者は、たくさんの方々のモザイクタイルを見て、多治見が陶器のまちであるだけでなく「タイルのまち」でもあることを学びました。

カネキ製陶所では、社長さんからタイルの製造工程を教えてくださいました。社員の方々の案内で、製品が次々と作られる様子を見学しました。見学の合間には、タイルの原料になる粉や作りかけの製品をさわらせてもらいました。「これがタイルになるのか」と驚いている姿が印象的でした。

笠原中央公民館では、モザイクタイルの貼り加工体験をしました。初めにタイルの貼り加工の見本を見せてもらい、その後、工程の一部を体験しました。タイルを枠に入れて隙間なく並べひっくり返すという貼り加工の作業は、「むずかしかったけれど楽しかった」と、多くの子の心に残りました。ひっくり返した一枠分のタイルをシートにすること。そのシートをたくさん使えば、広い壁面も一面にタイルで美しく仕上げられること。工場で製造されたモザイクタイルがどのような形で出荷され、活用されるかを学ぶことができました。

今回は、多治見観光ボランティアガイドの方々にも大変お世話になりました。途中でバスに乗り、ミュージアム、製陶所、公民館の三ヶ所を回るという忙しい日程でしたが、ガイドの方に安全に案内・引率していただき、計画どおり講座を終えることができました。保護者の方からは、「帰るなり、楽しかった話をたくさんしてくれました」、「多治見の地場産業を身近に感じる良い機会となりました」などの感想をいただきました。

ご協力くださった全ての方々に改めて厚くお礼申し上げます。

第27回多治見市連合生徒会交流会



1月7日(火)、とうしん学びの丘エールに、多治見市内8中学校の生徒会役員が集まり、「笑顔あふれる学校づくりまちづくりをめざす生徒会活動」というテーマで交流会を行いました。

はじめの会では、渡辺教育長が「生の声が聞けるのが本当に嬉しい。交流を通して生徒会活動を充実させてほしい」と挨拶し、期待を伝えました。続いて平和中の藤さんが「各校の発表にアドバイスをし合い、いい交流会にしよう」と力強く挨拶し、同じく平和中の長谷川君を議長として交流会がスタートしました。

「キーワードは『つなぐ』：活動の中で見られたよさをお互い認め合う」(平和中)「431輪のブーケ：合唱祭で見つけた仲間の良さを一輪の花束に。学校が仲間の良さを認め合える場所なら誰もが成長し、挑戦していける」(小泉中)「しゃべくり3：喜びや感動の声が多くあった。異学年同士の挨拶も増えた」(南ヶ丘中)「『躍進』5本柱を大切に校訓「誠実」を達成する」(北陵中)「「高めめる」：step-by-stepを大切に後期は質に拘りたい」(南姫中)「はあとふるトークでその日見つけた仲間の良さを発表し合う」(笠原中)「縦、横を超えた合唱交流を通して感動と想いの溢れた合唱祭ができた」(陶都中)「「勇敢」動き出しの一人目に：活動に対する一人ひとりの温度差が縮まった」(多治見中)

より温かい学校に、より成長した一人ひとりに。そうした夢や願いに向けて考え抜かれた活動と、その結果得られた宝物が、素敵な言葉で生き生きと語られました。「縦割り活動の具体的な成果は?」「(NGワードをなくす)日本列島パズルの完成度は?」「ボランティア参加率90%はすごい。どうやって維持を?」等、質疑応答もとても活発に行われました。深い話し合いは感動的でした。

それぞれの学校が個性を生かしながら、共通の話題で交流することで、各校の活動がより充実するよう、教育委員会は今後も支援していきます。

<2月の行事から>

- 1日(土)第55回土と版画展(～3日(月))
パロー文化ホール
- 4日(火)社会科副読本編集委員会
- 5日(水)校長会
- 13日(木)特支コーディネータ研④
- 18日(火)研究報告会

<3月の行事から>

- 6日(金)中学校卒業式
- 10日(火)公立高校入学試験
- 16日(月)中学校半日入学
- 25日(水)小学校卒業式
- 26日(木)小中学校修了式